

# ユニットケアで個性尊重



### やりがい聞いてみました

「介護職員になったきっかけは、中学生の時、母が介護職員になりました。別の業種で働

- 職場のポイント**
- ・新しいこと、ものを積極的に導入
  - ・系列施設としっかり連携してケアに生かす



ユニットのリビングスペースで洗濯物をたたむ利用者を、笑顔で見守る＝岐阜市鏡島南、特別養護老人ホーム燦燦

いていた頃と比べると楽しくなっていて、さらには明るくなっていく姿を見て、介護の仕事に興味を持ちました。そこで近くの特別養護老人ホーム（特養）の夏祭りにボランティアへ行き、やりがいのある仕事ができる場所だと感じたので、大垣桜高校の福祉科に進み、国家資格の介護福祉士を取得しました。高校卒業後は介護老人保健施設（老健）に就

職して10年間働き、5年ほど前から燦燦で働いています。ちなみに母は今も現役で働いていますし、3歳年下の弟も大垣桜高校福祉科、大学へと進み、現在は県内の別の法人で介護職員をしていますので、親子3人でこの業界にお世話になっています。

「老健から燦燦に移った理由は、老健は基本的に「家に帰って生活する」という目標があるため、一時的に滞在する施設ですし、リハビリなどの時間が多くあります。利用者ともっと深く関わりたいとの思いから、

利用者それぞれに個室があり、その前にリビングスペースがあるというアットホームな雰囲気の中、個性や生活リズムを大切にできる「ユニットケア」をしている燦燦に移りました。

利用者から「あなたにやってもらえて良かった」などと直接言ってもらえることが、やりがいにつながっています。また、利用者の状態が良くなると変化が目に見えるときもうれしく、それらの積み重ねが力になっていきます。高校時代から一貫して、介護そのものをやめたいと思っただことは一度もありません。

自分が笑顔でいることで、利用者の笑顔も増えていきますので、これからも笑顔で頑張りたいですね。大変だと思つことはユニットリーダーとして職員をまとめる必要はありますが、日々感じていく必要はあります。

「施設の自慢できる点は、新しいものをどんどん取り入れたりと、働きやすさを改善していったりする雰囲気が良いと思います。少し前には、全てのベッドに「眠りSCAN（スキャン）」を導入しました。利用者がベッドを離れた際はアラームが鳴りますし、心拍や呼吸数などのデータが記録されるため、看護師らとの連携が取りやすくなりました。就寝中は部屋に入らないでほしいという方もいますので、気持ちに寄り添いつつ安全も確認できるように良かったと感じています。

病院をはじめ、系列の施設が多い点も良いです。その方に合った施設が選べ、連携も取りやすいので、この整った環境で利用者がその方らしい生活ができるよう、これからも支援していきたいですね。